



平成25年5月27日

卓話 『The TOMODACHI Initiative and
the Future of U.S.-Japan Relations』
友だちイニシアティブと将来の日米関係

在日米国大使館首席公使

カート・トン 様

こんにちは。

今日は「The TOMODACHI Initiative」について二つのことをお伝えしたいと思います。一つは、なぜこのInitiativeをアメリカ政府として努力しているかということ。そして具体的にどのようなことをしているかということです。

日米関係はいうまでもなく両国にとって非常に大切です。アメリカから見て日本ほど重要な同盟国はありません。ですから日米関係を健全なまま、ずっともっていきたいと思っています。こうした中で大使館の目的は大体三つあると思います。一つは同盟関係をますます強くすること、二つ目は経済関係をもっと強くすること、三つ目は人の交流を強くすることです。実は大使館の中で私たちが一番心配しているのがこの三つ目の分野で、この20年間、この分野だけが悪化しています。例えば日本からの留学生は90年代には毎年4万人程度がアメリカに行きましたけれども、最近では2万人程度に減っていますし、観光の面でもアメリカに行く日本人、日本に来るアメリカ人はあまり増えていないですね。

日米関係を重視する民間組織はいろいろありますけれども、実はそのほとんどで高齢化しています。やはり日米関係に貢献する次世代の人たちを作り出すことが必要です。TOMODACHI Initiativeはそういう中で生まれました。きっかけは3月11日の大震災のときのトモダチ作戦で、その名前を借りて作りました。アイデアとしては、友情、リーダーシップ、希望のいずれかに貢献することであればなんでもやってみるという考えで、いろいろな企業や個人からの寄付金で賄われて

います。プログラムの分野は三つありまして、一つ目は教育と交流のプログラムです。日本の若い人をアメリカに連れて行って、いろんな教育プログラムに参加させるもので、いろいろなタイプとサイズ、スタイルがあります。若い人に希望を与えるような前向きな教育、リーダーシップの力を強くする教育がメインです。二つ目はスポーツ、音楽、芸術などの文化交流プログラムです。昨年メジャーリーグのカール・ディブケン選手が東北に来て子どもに野球を教えたり、東北の太鼓グループをアメリカのさくら祭りに送ったりしました。三つ目は起業支援、指導者育成プログラムで、起業者を育てるようなコンテストとか教育の機会を作ることがメインです。

最近、アメリカに留学する日本の若者が少なくなったことの一つは金銭的なことです。アメリカの大学の学費は大変高いです。もう一つは精神的なことで、英語力に自信を持ってない若者が沢山いて、アメリカに行っても成功できるかどうか自信を持ってないのではないかと思います。三番目の理由が一番大きいと思いますけれども、努力して外国で勉強しても日本の企業がその価値を認めるかどうか不安があると思います。外国で勉強した体験を重視しますよというシグナルを企業のトップの方々がどんどん伝えていけば、留学希望者が増えるのではないかと思います。

ありがとうございました。

